

国語 第2学年 そうぞうをふくらませて読もう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。同じ言葉を聞いても人物によって受け取り方が違う点に気づき、その違いが伝わる音読を試す。C(1)エの学習として、会話と行動の音読メモ。言う人物の様子、聞く人物の様子、行動の根拠、選んだ読み方を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：会話と行動の音読メモを残す。言う人物の様子、聞く人物の様子、行動の根拠、選んだ読み方を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：言葉の意味を全人物が同じ意味に受け取っていると思う。声の演技だけが目的になる。これについて、言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確かめてから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。〔知識及び技能〕(1)クとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：会話と行動の音読メモは紙に記録できる。言う人物の様子、聞く人物の様子、行動の根拠、選んだ読み方を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：読み方を一つに決めて練習するのか。

返し：C(1)エで想像した行動を基にするので、根拠のある複数の読み方を試せる。教師の模範音読の再現度で評価しない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

